処理科のこれまでの学習の成果と英知を集めた授業内容が行われていた。

## 【商業技術】

「珠算・暗算、商業文書、商業デザインの基礎的な知識と技術を習得させ、商業技術の意義や役割について理解されるとともに、ビジネスの諸活動に活用する能力と態度を育てる」

明治四十五年当時には数学の科目の中に「珠算」として設置、今に至るが「珠算」・「計算実務」・「計算事務」・「ビジネス基礎」・「商業技術」として商業教育の中で主要な科目として変化していった。本校の歴史の中でも珠算部は輝かしい実績を持ち、一時代を築いていた。特に「珠算」は、数の表現や記数法などを学習し、現在では用具は電卓が主であるが、珠算・電卓検定を受験している。

## 【情報処理】

「ビジネスにおける情報活用能力の育成」

情報処理教育は本校における商業教育の大きな特徴の一つであるといえる。

一九六九年（昭和四十四）情報化時代といわれる七十年代に備えて理科教育および産業教育審議会は「高等学校における情報処理教育の推進について」の建議をおこない、情報処理教育に重点をおく学科の新設と教育が必要であることを提言した。本校では一九七四年（昭和四十九）に県下で三番目の情報処理科が一クラス設置された。

当時の様子がこう記されている。『更に生徒達に運が悪いことには、実習室はもちろん肝心のコンピュータ等の施設・設備が全くない状態であったことである。実習時間をいかに多く確保するかが重要な情報処理教育であって、コンピュータがないということは生徒にとっても教員にとっても大きな痛手であった。やがて会津工業高校に導入されているミニコンピュータを借用して実習が確保できる様になったがそれでも実習時間は不足していた…中略…生徒を引率しての教育センターでの実習が計画的に実施されることになった。貴重な教育センター実習を成功させるため、貸切バスで移動中の車内でも、学校の授業時間に合わせて授業を行った』【若商創立八十周年記念誌、二百十頁（齋藤義人先生）より抜粋】

この後、一九七六（昭和五十一）コンピュータが設置され、当時は紙テープせん孔機が中心の時代にカードせん孔機を導入、この後数回の更新を経て、現在の設備に至るのである。

授業内容においても言語教育では「FORTRAN」・「BASIC」、「COBOL」と時代に応じて学習内容に変化があるが、情報処理科では言語教育を柱に授業が展開され、「情報処理」・「情報処理Ⅱ」・「プログラミング」と名称変更されているが、ここ数年では全商情報処理検定のみならず、通産省（現経済産業省）主催、情報処理技術者試験へむけての学習にも取り組んでいる。

また、実習環境においても、汎用機・端末からサーバ・クライアント方式に変化し、Windows OS を